



大阪医科大学附属病院 広域医療連携センター

M I Z U K I

医療連携室ニュース「みずき」

[volume]

27

2015 WINTER

contents

新任のご挨拶

難病対策の改革に向けた取り組み

放射線科の院内標榜の変更と
PET-CTの稼働について

訪問看護ステーション開設

「連携医療機関登録制度」の登録募集

「輸血室」からのお知らせ

「健康科学クリニック」受診のご案内

編集後記

2015 年頭のご挨拶



広域医療連携センター
センター長
黒岩 敏彦

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、健やかに新しい年を迎えられましたことと、心よりお慶び申し上げます。

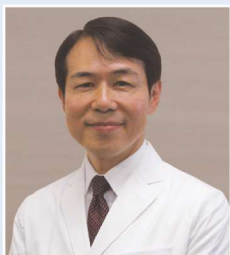
さて本院では、今年1月から『訪問看護ステーション』がスタートいたします。小さな事務所での開設ですが、本院での急性期医療を終えた患者さまをスムーズに在宅医療につなげられますよう、シームレスな医療連携を目指し取り組む所存です。地域の皆さまからのご支援を心よりお願い申し上げます。

また、難病施策の変更により本院におきましても『難病総合センター』を設立いたします。患者さまへの質の高いケア・支援を目指して取り組みの幅を少しずつ広げていきたいと考えております。

救急・緊急領域につきましては、タイムリーな診療要請に対応できますよう、昨年ホットライン（循環器内科、赤ちゃんの心臓、周産期、脳卒中）を開設いたしました。各領域の専門医に直接繋がることによって、受入れを含めた速やかな対応が可能となりました。また、ご相談もお受けしておりますので是非、ご利用いただきたいと思います。ホットライン以外にも救急領域において、速やかに対応ができる医療機関を目指して取り組む所存です。

さらには特定機能病院、災害拠点病院、がん診療連携拠点病院など多くの指定を有する施設として、高度な技術を駆使して多岐に渡る先進医療を推進する施設として、邁進して参りますので、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

新任のご挨拶



総合内科 科長
鈴木 富雄
(すずき とみお)

総合内科

当科は、腹痛・頭痛などのよくある問題、発熱・倦怠感などの全身的な症状や多臓器にまたがる複雑な問題、どこの科に行ってもよいのか不明な場合など、様々な幅広い健康問題に対して最適に対応をいたします。また不明熱など他の医療機関や専門各科で診断困難であった患者さまに対して、答えを出させていただくのも役割です。どうぞよろしくお願いいたします。

- 専門分野 総合診療、医学教育
- 資格 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医・近畿支部代議員、日本医師会認定産業医
- 略歴 平成 3年 名古屋大学医学部卒業
平成 3年 市立舞鶴市民病院内科勤務
平成12年 市立舞鶴市民病院内科医長
平成12年 名古屋大学医学部附属病院総合診療部医員
平成13年 名古屋大学医学部附属病院総合診療部助手（病棟医長）
平成18年 名古屋大学医学部附属病院総合診療部講師（22年より総合診療科に変更）
平成26年 大阪医科大学地域総合医療科学（兵庫県）寄附講座特任教授
- 趣味/特技 読書、写真撮影、絵画鑑賞



脳血管内治療科 科長
宮地 茂
(みやち しげる)

脳血管内治療科

カテーテルを用いて脳の血管障害を治療する脳血管内治療は、現在脳外科治療、脳卒中治療の中で大きなウェイトを占めてきている分野です。脳卒中センターの発展の一翼を担い、脳神経外科の売りの一つとなるべく、脳血管内治療症例の増加、後進の指導、デバイス開発など臨床、教育、研究で地域の中心となるように邁進していくつもりです。

- 専門分野 脳血管内治療、脳神経外科、脳卒中外科
- 資格 脳血管内治療指導医、脳神経外科専門医、脳卒中専門医
- 略歴 昭和58年 名古屋大学医学部卒業、名古屋掖済会病院研修
昭和63年 名古屋大学医学部附属病院脳神経外科医員
平成 3年 豊橋市民病院脳神経外科医長
平成 5年 ナンシー大学（フランス）神経放射線科留学
平成 9年 名古屋大学医学部附属病院助手（脳神経外科）
平成11年 名古屋大学医学部附属病院助教授（平成19年より准教授）
平成26年 大阪医科大学准教授（脳神経外科・脳血管内治療科）
- 趣味/特技 旅行、音楽鑑賞

難病対策の改革に向けた取り組み

「難病総合センター」設立

難病とは、原因がわからず慢性経過をとり、本人・家族の経済的・身体的・精神的負担が大きい疾患です。本院では、大学病院としての社会的使命を果たすべく、今までも多くの専門医が難病患者さまの診療にあたって参りました。平成27年1月から難病改革が実行され、医療費助成の難病対象疾病、小児慢性特定疾病が拡大されます。このように、難病行政が大きく変換期を迎える今、本院では『難病総合センター』を設立いたします。難病疾患理解の促進と難病治療への取り組みと共に、ケア介護の最適化を図り、在宅療養を含めた総合的医療サービスを充実させたいと考えております。どうぞ『難病総合センター』をよろしくお願いいたします。



神経内科 科長
木村 文治
(きむら ふみはる)



放射線科の院内標榜の変更とPET-CTの稼働について



中央放射線部 部長／
放射線診断科・
放射線治療科 科長

鳴海 善文

(なるみよしふみ)

放射線科の院内標榜変更

(旧)放射線科 ⇒ (新)「放射線診断科」・「放射線治療科」

診療部としての中央放射線部は放射線診断(CT、MRI、X線検査)、放射線治療、核医学、IVRの各部門に分かれて運営しておりますが、診療科としての放射線科は、今年から院内表示で「放射線診断科」と「放射線治療科」に分けて表示しています。従来、放射線を使う診療科であることから「放射線科」と標榜してきましたが、放射線診断科は画像診断業務とIVR、放射線治療科は治療外来、治療計画と診療内容がそれぞれ異なるために、多くの大学病院、基幹病院では院内標榜が切り替わる時期に来ています。また患者さまの利便性からも診療内容のよく分かる診療科名が表示されることが望ましいと思われまます。

PET-CTの稼働について

PET検査が臨床現場に登場して以降、CTとの組み合わせで多くの悪性腫瘍、心疾患、脳疾患の診療に欠かすことのできない重要な検査となっています。本院におきましても本年10月より、高度な診断情報を得るためPET装置とCT装置を一体にした高性能PET/CT装置(Discovery PET/CT 710 GE社製)を導入し¹⁸F-FDG検査薬のデリバリーによる検査運用を開始しています。



PET/CT装置(Discovery PET/CT 710)

本機はPET-CTとしての最高機種で、time-of-flight法という技術を用いて従来よりノイズの少ない鮮明なPET画像を得ることができます。本院における癌診療、循環器診療に大いに貢献するものと期待されています。

訪問看護ステーション開設



訪問看護ステーション
設置推進委員会
副院長

小野 恵美子

(おの えみこ)

我が国は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行し、団塊の世代が75歳以上となる2025年には超高齢社会となり、慢性疾患や認知症等の増加が予測されています。

一方、厚生労働省においては、2025年を目標に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進しています。これらのことを踏まえ、患者さま、ご家族の皆さまが、安心して在宅で過ごすことができますように、本学附属病院を退院された患者さまを中心とした在宅支援を目的として、「大阪医科大学訪問看護ステーション」を開設(平成27年1月5日開業予定)することにいたしました。

今後は地域医療機関、介護施設、行政等との連携を密にしながら訪問看護を行って参りたいと思いますので、何卒よろしくごお願い申し上げます。

● 医療連携室からのお知らせ

■ 「連携医療機関登録制度」の登録募集

本院が地域の医療機関様と連携していることを患者さまにお知らせし、安心して医療を受けていただくことを目的として、「連携医療機関登録制度」を設けています。

平成26年12月1日現在で、93医療機関様・287クリニック様・187歯科クリニック様のご登録をいただきました。詳しい内容につきましては、ぜひ医療連携室にお問い合わせください。また、ホームページでもご確認いただけます。

大阪医科大学附属病院

検索

トップページ

→

医療機関さまへ

→

連携医療機関登録制度のご案内



「輸血室」からのお知らせ

本院では、24時間体制で輸血関連検査と輸血用血液製剤の保管・供給を行う輸血室による一元管理の下、臨床輸血に精通し高い専門性を有すると認定を取得した医師、看護師、検査技師を中心に、チーム医療として安全で適正な輸血医療の推進に取り組んでいます。その結果、第三者評価においても高い評価を得ており、診療報酬における輸血管理料、輸血適正使用加算等の算定をはじめ、全国で83病院しか取得していない日本輸血細胞治療学会による視察認定を受けております。

輸血による病原体伝播のリスクがゼロではない現状を踏まえ、本院で輸血を受けられた患者さまには、約3ヶ月後に感染症検査を受けていただいております。つきましては、本院からの輸血後感染症検査実施を依頼する文書を受け取られた際には検査を実施いただき、検査結果をご返信いただきますようお願い申し上げます。なお、本件を含め輸血に関するお問合せご相談は、TEL072-683-1221（代表）より輸血室までお願いいたします。



輸血室 室長
河野 武弘
(こうの たけひろ)

大阪医科大学「健康科学クリニック」受診のご案内

大阪医科大学が初めて健診センターとして、平成21年6月に開業した施設が当クリニックです。「本学の長年に亘り培った医学教育と臨床研究を基盤に、未病の発見と健康寿命の延伸に取り組み、よって健康文化に貢献する」ことを理念として努めてまいりました。現在ではリピーターの方も増加し、多くの受診者さまにご利用いただいております。

健診メニューでは基本コースをはじめ女性のためのコースや肺ドックコース、脳ドックコース等を用意し、オプション検査も豊富に取り揃えています。(http://www.omchsc.jp/)

また、マルチスライスヘリカルCT、デジタルマンモグラフィ、上部消化管内視鏡等、各種オープン検査にも対応しておりますので、是非ご利用下さいますようお願い申し上げます。



～♪ご予約をお待ちしております♪～



編集後記

人生はマラソンか？

少し古いCMを思い出す。マラソン大会のスタートのシーンから始まり、コースをはみ出しランナーが自由勝手に走り出す。うろ覚えで定かでないが、「人生は決められたルールなんてない」「ゴールはひとつではない」そんなニュアンスのCMだった。

巷では、いまマラソンプームである。エントリーに出遅れると定員オーバーで参加できない。競争は激しいが、ファン層が拡大することは嬉しいこと。ただ、最近マナーの悪いランナーが多いらしい。大会主催者にクレームが多くなっていることを聞いた。

マラソン大会は確かに、参加料を支払って参加するが、実は大会を支えている多くはボランティアだ。リフレッシュメントを渡してくれるのも、ゴールで完走賞や記念品を用意してくれるのもみんなボランティアスタッフだ。マラソンは一人では走れない。応援や支え手があつてはじめて完走できる。

人生は与えられたものでなく、自分で刻むもの。確かにそうかもしれない。

しかし、マラソンでボランティアが必要なように、人生にも必ず支え手が必要になる、そこへの感謝をもう一度覚えたい。(M.M)

医療連携室ご利用のご案内

■ 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日／8:30～20:00

土曜日／8:30～12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

■ 送信先 FAX.072-684-6339

■ 連絡先

大阪医科大学附属病院

広域医療連携センター医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL.072-683-1221(大代表)内線2308

TEL.072-684-6338(医療連携室直通)



● 本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。お手数ですがご利用の場合は、電話又はFAXにてご請求ください ●